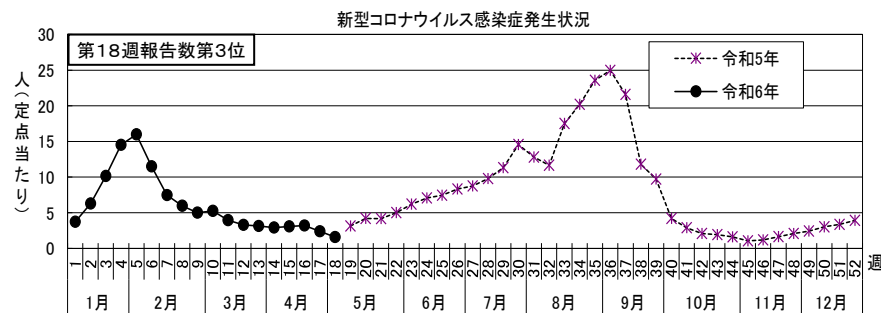
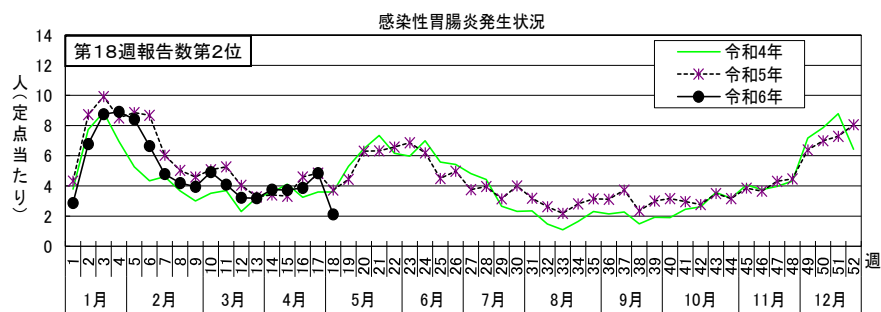
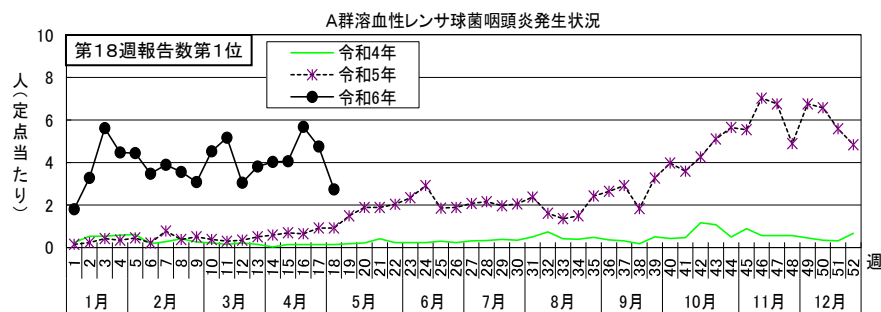


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年4月29日（月）～令和6年5月5日（日）〔令和6年第18週〕の感染症発生状況

第18週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 2）感染性胃腸炎 3）新型コロナウイルス感染症でした。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.74人と前週（4.76人）から減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.12人と前週（4.84人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は1.58人と前週（2.39人）から減少しました。



帰国後の体調不良に注意しましょう！

ゴールデンウィークに海外へ渡航された方も多いと思います。帰国後に体調不良を訴える方は比較的多いとされており、特に発熱や下痢等はよくみられる症状です。感染症による症状は帰国後3週間以内にみられることがほとんどですが、数週間から数か月後に発症する場合があります。国内で発生していない感染症にり患している可能性もありますので、体調がすぐれない場合は早めに医療機関を受診しましょう。なお、受診の際には、適切な診断を受けるため、症状の他に渡航先や渡航期間、渡航中の行動等を医療機関にお伝えください。

発熱

発展途上国から帰国した人の2～3%に発熱がみられるといわれています。自然におさまることもありますが、急速に進行し命に関わる感染症もあります。

発熱＋関節痛、筋肉痛、頭痛等がみられる感染症
デング熱、マラリア、腸チフス等

発熱＋呼吸器症状がみられる感染症
鳥インフルエンザ、中東呼吸器症候群（MERS）等

発熱＋皮しんがみられる感染症
麻疹、風しん、デング熱、腸チフス等

発熱＋何らかの神経症状がみられる感染症
狂犬病、ダニ媒介性脳炎、侵襲性髄膜炎菌感染症等

下痢

海外旅行に行った人の半数以上が旅行先で下痢症状を呈するとされています。多くは数日でおさまりますが、原因によっては長引くこともあります。

急性症状として下痢がみられる感染症
コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症等

慢性症状として下痢がみられる感染症
ジアルジア症、アメーバ赤痢、クリプトスポリジウム症等

全身症状の一症状として下痢がみられる感染症
重症熱性血小板減少症候群（SFTS）、ウイルス性出血熱等

一般社団法人日本感染症学会「症状からアプローチするインバウンド感染症への対応 感染症クイック・リファレンス」より作成